

森永乳業×兼松×TOWING

コーヒー2050 年問題解決の貢献に向けたバイオ炭の実証実験開始 ～ブラジルのダテラ農園と共同で持続可能なサプライチェーン構築を目指す協創～

森永乳業株式会社、兼松株式会社、株式会社 TOWING は共同で、コーヒー2050 年問題に対する施策およびサプライチェーン全体の温室効果ガス排出量削減策の一つとして、コーヒー豆のサプライチェーンパートナーであるダテラ農園※1の育苗地を対象に、TOWING の高機能バイオ炭「宙炭(そらたん)※2」を施用する実証実験を開始しました。



TOWING の高機能バイオ炭「宙炭」



宙炭を散布したダテラ農園の苗木

実証実験では、コーヒー豆の収穫量・品質、土壌の炭素貯留量・性質改善率等を分析・評価すると共に、環境再生型農業の促進可能性を検証し、一定の成果をもってより広範囲な実証へと移行していく予定です。また、将来的には、ダテラ農園が実施する持続可能なコーヒー生産体系の更なる促進およびサプライチェーン全体の温室効果ガス排出量削減に寄与するカーボンインセツ※3の実現を通して、気候変動対応の更なる推進と、サプライチェーンパートナーとの関係強化に繋げ、より持続可能なサプライチェーンの協創を目指していきます。

カーボンインセツの流れ



※1 ダテラ農園

ブラジルのミナスジェライス州にあるコーヒー農園。2005 年より、当社チルドカップコーヒー「マウントレーニア」シリーズに同農園コーヒー豆の一部を使用。2009 年には、同農園のコーヒー豆を 100%使用した「マウントレーニア ディープエスプレッソ」を販売開始。同農園との取引は今年 20 周年を迎え、同農園の植樹事業「Tree_lion_PROJECT (トリオン プロジェクト)」にも参画。

※2 宙炭

地域の未利用バイオマスの炭化物に対し、TOWING が保有する土壌由来の微生物群を効率的に選別・培養する技術を用いて実現した土壌改良資材。減化学肥料・有機転換の促進、作物の品質や収穫量の向上など、多くの有効機能を持ち、一般的なバイオ炭の特徴である、「炭素固定による温室効果ガス排出量削減」、「残渣利活用によるサーキュラーエコノミー」に加え、「農地内の土壌微生物群の活性化による土質改善を通じたネイチャーポジティブ」というサステナビリティにおける3つの主要課題すべてに対しての貢献が期待される。

※3 カーボンインセット

サプライチェーン内で削減・除去された温室効果ガス排出量を同一サプライチェーン“内”で取り込む（生産者により創出されたカーボンクレジットの調達・償却、製品排出量の削減への活用等）仕組み。サプライチェーン“外”で創出される環境価値を取り込む”カーボンオフセット”（他社が創出したカーボンクレジットの調達等）の対義語。

●森永乳業株式会社

コーポレートスローガン「かがやく“笑顔”のために」のもと、2022 年度より本格的にサステナビリティ経営の実現を目指し、「サステナビリティ中長期計画 2030」を策定しました。その中の「資源と環境」において、2030 年度までに Scope3 における温室効果ガス排出量削減率 10%以上（2020 年度比）を目標としており、達成に向けて取り組んでまいります。また、自然資本への配慮に関しては、環境負荷低減に資する生産支援と、環境レジリエンスに資する生産支援を強化してまいります。

●兼松株式会社

兼松は日本におけるスペシャルティコーヒー輸入のパイオニアとして、20 年以上前からダテラ農園をはじめとする世界中の高品質なコーヒーを発掘し、輸入・販売しています。2024 年 4 月から開始した 3 カ年中期経営計画「integration 1.0」の主要施策に GX を設定し、その注力分野の一つに「農業・食品 GX」を掲げています。今後も、兼松が深く関わる食料サプライチェーンにおいて、環境負荷の少ない食料の創出・供給を通じて脱炭素と資源循環（サーキュラーエコノミー）に貢献し、持続可能なサプライチェーンの構築を目指してまいります。

●株式会社 TOWING

「サステナブルな次世代農業を起点とする超循環社会を実現する」をミッションに掲げ、2020 年 2 月に設立した、名古屋大学発のグリーン＆アグリテックスタートアップです。温室効果ガス排出削減と、減化学肥料・有機転換を同時に実現する土壌改良資材である、高機能バイオ炭「宙炭（そらたん）」を開発しました。未利用バイオマスを宙炭としてアップサイクルし、持続可能な食料生産システムの実現を目指しています。

◆森永乳業ウェブサイト ～森永乳業のサステナビリティ～ <https://www.morinagamilk.co.jp/sustainability/>